

田中三津彦議員



● 夜間の公共交通の空白解消について  
● 国の地方財政措置活用による公共施設等の集約化推進

そのほかの質問

- ・自衛隊音楽隊コンサートの来年度招致と定例化
- ・防災体制の充実・強化について

一般質問

**問** 9月1日以降、市内のタクシースタンドは午後7時以降の営業を取り止めた。これは高齢者など交通弱者の足を奪い、夜間の急病対応など市民の生活に影響する大問題。観光の産業化、移住定住の促進を謳っても、夜の足が無いまちの魅力は無い。市の官民全ての力を結集し、タクシースタンドの夜間営業を復活させるとともに、従来の公共交通政策を抜本的に見直し、国家戦略特区の認定を受けて新たな配車サービスを確認する等、将来に向けた解決策を検討すべき。市の対応策を問う。

**答** 中長期的な対策として、一定の行政支援を持つて、10月中をめどに夜間のタクシースタンドが再開できるように鋭意検討を重ねている。今議会中の委員会等で具体案をお示しし、ご審議頂きたいと考える。

また、市内タクシースタンドでは運転手の高齢化などいくつかの根本的な課題を抱える中で、持続可能なタクシースタンドのあり方及びタクシースタンドに代わる交通手段の確立について、国の動向に注意を払いながら、合わせて検討を進めていく。

**問** 市は昨年、今後の財源不足を踏まえ、管理する公共施設等の総量を縮減する旨を示した。そこで、国の地方財政措置を活用して市の財政負担を減らしつつ、老朽化した市庁舎、市民会館、教育会館を集約するとともに、村部の小学校、公民館、児童センターを同一の施設に集約して各地区に現在の機能を残すように努めてはどうか。

**答** 勝山市としては、施設面積の約40%を占める学校施設のあり方が他の施設へ大きく影響することから平成30、31年度で予定している中学校の再編検討委員会の議論の方向性を確認しながら、今後の施設のあり方について検討を進めていきたい。

各施設のあり方の議論を市民の皆様や議会のご意見を十分聞き、統廃合や再編後の施設が、地域でどのような役割を担うのかを十分検討し、行政サービスを持続しながらどのような施設配置が望ましいかという観点から計画していきたい。

山田安信議員



● 国民健康保険制度について  
● 幼児教育の施設配置のあり方について

そのほかの質問

- ・タクシースタンドの夜間営業中止に対する対策について
- ・観光政策のあり方と勝山市観光まちづくり株式会社について

一般質問

**問** ①8月31日に示された福井県の試算で国保税一人あたりの値下げが県平均4,627円なのに勝山市は僅か969円と低い原因は何か。勝山市に不利な算定方式なら改善を求めたい。

②福井県の試算では国保税の資産割をしていない。問題のある資産割を勝山市も廃止すべき。

③全国知事会は「子どもに係る均等割保険料軽減」を国に求めている。勝山市として福井県に独自実施を要請すべき。

**答** ①いくつかのルールの中で反映するもの、しないものがあり、最終的に県から標準税率が示されるが、その中で勝山市として、県下平均より高い税額とならないよう、十分配慮して税額を決めていきたい。最終的にはその点は総合的に勘案していきたい。

②賦課方式変更に伴う影響や他市の状況等を勘案して、平成30年度国保税率改定のは非と合わせて検討したい。

③平成30年度から財政的主体となる県の考え方や他市町の考え方を確認した上で対応していきたい。

**問** 保育園、こども園、幼稚園が市内小学校区で偏在している。

①幼稚園のあり方を検討する際、施設の配置について保護者の意向を調査すべきだがしているか。

②運動会や文化祭など、後の地域との連携には、幼稚園だけでなく、保育園なども含めた検討が必要だ。

③勝山中部幼稚園は廃止だけでなく、こども園も選択肢の一つにすべき。

**答** ①これまでに施設配置の保護者の要望等について調査をしたことはない。

②市内のいずれの保育園・認定こども園も、地域とのつながりを大切に様々な事業を実施しており、地区や小学校から要請や声かけがあれば是非とも積極的に参加したいとの意向も聞きしている。十分連携をとれる状況にあると考えている。

③認定こども園では給食を提供する施設が必要のため、現在の勝山中部幼稚園の設備では対応できない状況。その対応も含めて、新たな市立認定こども園の設置は容易でないと考えながら、検討委員会で協議して頂く。